

平成 27 年度研究プロジェクト研究活動報告

研究種別	■共同研究 4
主査名	鹿島 茂・中央大学理工学部 教授
研究テーマ	交通需要の長期的変化と社会・経済環境
研究の目的: 本研究の目的は、総合的な交通計画作成時に行われた交通調査結果及び需要予測手法について、事後的に分析を行い、交通需要の変化を適切に表現するために必要とされる調査データと予測手法の条件について明らかにすることである。	
研究の経過(4月～9月): これまでに7月と9月に2回研究会を開催した。3回目を11月に予定している。2回の研究会では、研究会のメンバーが、研究テーマである社会・経済環境の変化と交通需要の長期的変化についてのそれぞれの問題意識を自由に発言してもらい、問題意識の相互理解を進めた。出された主な内容は、インドにおける経済成長と高速鉄道および都市鉄道の整備需要の関係、国際化に伴い増加している貨物船に対する国際機関での温暖化対策の取り組み、自動車の自動運転の開発状況と実現のシナリオと社会への影響、少子・高齢化社会時代の地方都市における自動車市場の見通し等である。	
下期へ向けて(課題等): 今後は、メンバーによる自由な意見交換に加え、本年度予定している研究内容に沿った検討を始める。具体的には、①我国の100を超える都市圏で行われたPT調査結果から、交通需要モデルの1つである分布モデルの距離にかかる係数を用いて行っているメタ分析結果、②我国の総合交通体系策定時に用いられた全国交通需要モデルを対象に行っている需要予測結果に関する事後分析結果について順次研究会に報告し、メンバーから、問題点、改善点について意見をもらうことにしている。もう1つの研究内容については、11月上旬にソウルでKOTI(韓国交通研究院)主催の高齢社会における公共交通の役割に関するセミナーにメンバーの2名が参加し、日本での対策について報告するとともに、韓国での高齢化社会への対応の考え方と現在想定している具体的対策について情報収集を行い、その結果を研究会で報告し、それを基に議論を開始することになっている。	
研究メンバー(敬称略): 鹿島茂(主査・中央大学) 小坂浩之(海上技術安全研究所) 坂本将吾(運輸政策研究所) 島川陽一(サレジオ工業高等専門学校) 杉田浩(計量計画研究所) 廣田恵子(自動車研究所) 今長久(自動車研究所) 布施正暁(広島大学) ヘイズ・ウイリアム(オリエンタルコンサルタンツグローバル)	